

岩内町

1337 大井裕貴

1. 岩内市の特徴

1.1 地名の由来

アイヌ語のイワウナイ (iwaw nay 硫黄の川) とする説や、イワナイ (iwa nay 山の川) とする説などがある。北海道の市町村のうち8割近くはアイヌ語からできた地名とさえ言われるほど、北海道はアイヌ語に依存している。アイヌ語からとられた地名で多いのは「別=ペツ(川)」「内=ナイ(川・沢)」といった川にちなんでつけられた地名や、また「幌=ポロ(広い)」という言葉も多く見かける。

1.2 町章

外輪5線は、5つの輪、即ち「イワ」を表し、そのうち「内」の字を図案化し、併せて「岩内」を象徴したもので、5輪は人道五倫を、円は協和を、内の字の直線は積極進取を意味したものの。

1.3 マスコットキャラクター

町民には、すっかりおなじみのイメージキャラクター「たら丸」観光協会としても、町としても、もっと広く外に向けても、岩内をアピールできる一人前のキャラクターに成長している最中である。ちなみにたらは、非常に貪欲なことから、腹いっぱい食べるという意味の副詞「たらふく(鱈腹)」の語源となったといわれている。

1.4 町のシンボル

岩内町では木・花・のシンボルが定められている。木は赤く染まる紅葉や果実が美しいので「ナナカマド」、花は秋の七草のひとつ「ハギ」となっている。「ナナカマド」という和名は、「大変燃えにくく、7度竈(かまど)に入れても燃えない」ということから付けられたという説が、広く流布している。その他に、「7度焼くと良質の炭になる」という説や、食器にすると丈夫で壊れにくい事から「竈が7度駄目になるくらいの期間使用できる」という説などもある。

図1 町章



出典：岩内町 HP

図2 マスコット



出典：岩内町 HP

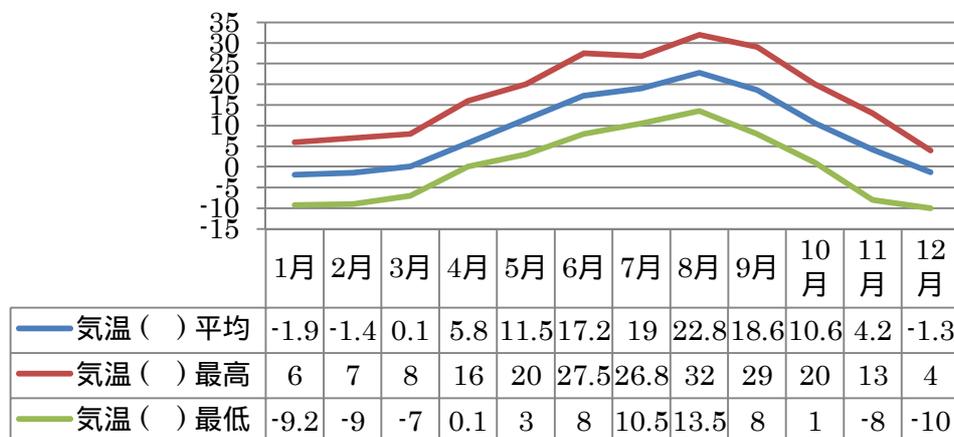
図4 ナナカマド



出典：岩内町 HP

2.2 気候

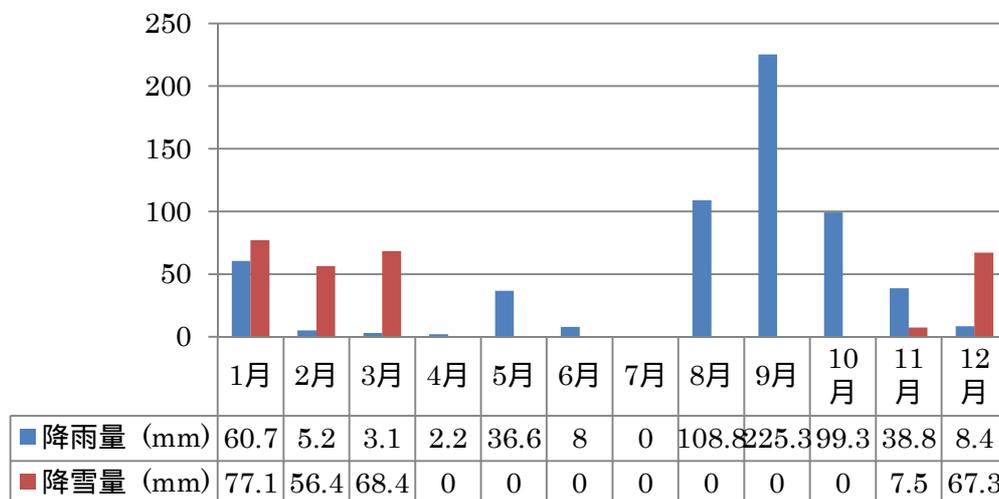
グラフ1 平均気温(2008年)



出典：岩内町 HP より筆者作成

岩内町は月の平均気温が最高になるのが8月(22.8)で最低になるのが1月(-1.9)である。日本海に面しており対馬海流(暖流)の影響を受けるため、上のグラフのような温和な気候状況が成立している。冬は寒さが厳しい北海道の気候が表れている。

グラフ2 降雨量・降雪量(2008年)



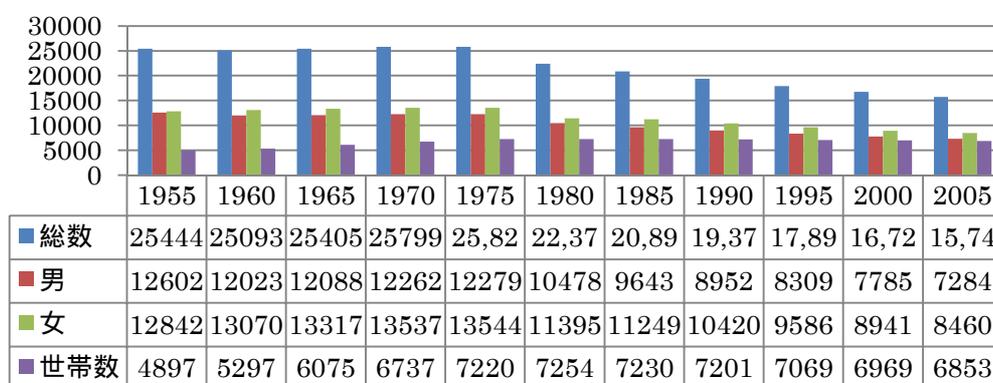
出典：岩内町 HP より筆者作成

気候は比較的温暖であるが、冬は積雪量が多い。特に、1月が最も多い。上のグラフからも夏場(特に9月)の雨量が多い事が分かる。岩内町は四季折々の自然に囲まれ、夏は海水浴キャンプ、冬はスキー&スノーボード、通年楽しめる釣りなどがある。

3. 人口世帯数推移

世帯数は1955年から1980年にかけての上昇以外には、年々減少傾向にある。人口は1960年から1975年にかけて増加していたが、1985年に急激に減少してから年々減少傾向にあることは明らかである。世帯数は1975年にピークに達しているが、全体的に変化は小さい。このことより、この地方の過疎化が懸念される。若年層の都市への流出により高齢者が多く残ったことと、岩内町で子供を産む人が減ったことによる少子化が原因ではないだろうか。

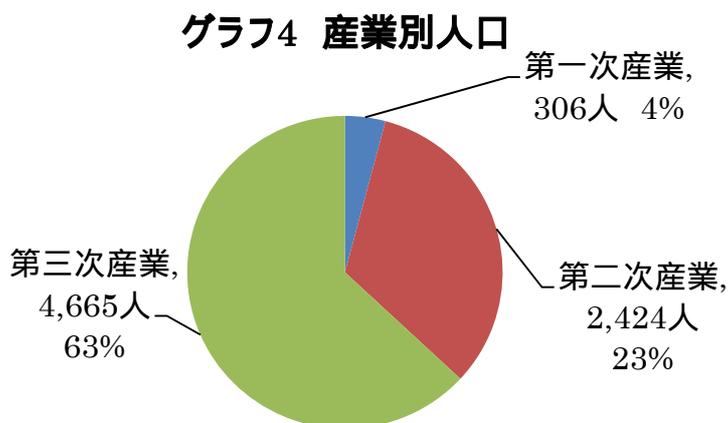
グラフ3 人口(人) 世帯数(戸)



出典：国勢調査より筆者作成

4. 岩内町の産業

4.1 産業別人口



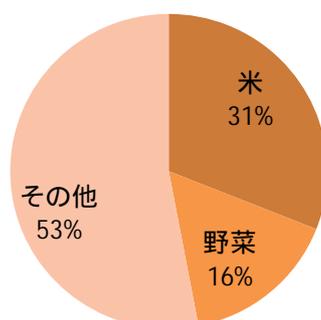
出典：市町村の姿より筆者作成

岩内町は第3次産業が半数を超え、特に多い。次に第2次産業、第1次産業となっている。

る。第1次産業は農業、林業、漁業であり、第2次産業は製造業、建設業であり、第3次産業は卸売業、光熱水道事業、運輸・通信事業、温泉や飲食店などのサービス業である。産業別では農業が基幹産業となっている。

4.2 農業

グラフ5 農業別産出額内訳



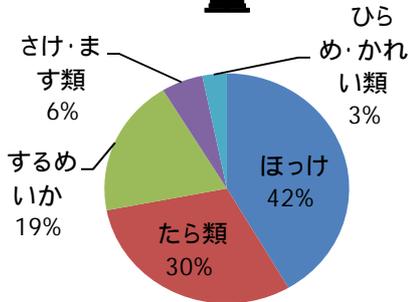
出典：市町村の姿より筆者作成

農家の総人口は151人で男性は76人、女性は21人であり、男性の方が多い。そのうち基幹的農業従事者は男性が29人、女性が21人の合計50人である。基幹的農業従事者のうち65歳未満が25人であり、男性は15人、女性は10人である。これより65歳以上では男性の方が多いことが推測される。岩内町は農業・産出総額において、19千万円(全国ランキング：1592位、北海道内ランキング：167位)、耕種・産出総額では、10千万円(全国ランキング：1529位、北海道内ランキング：141位)、畜産・産出総額においては、9千万円(全国ランキング：1237位、北海道内ランキング：145位)となっている。農業産出額・総計19千万円である。主にアスパラガス栽培の発祥の地でもある。

4.3 漁業

漁業においては、右のグラフからはほっけが多く獲れていることが分かる。その他の水産動物はたら、するめいかなどである。しかし、金額で見るといかがが294.693千円で1位、251.179千円でさけが2位、121.194千円で3位がたらとなっている。岩内町は日本海沿岸に位置していることから漁業が盛んである。漁業別人口は岩内町の男性141人94.6%女性8人5.4%の計149人である。また漁業就業者に占める65歳未満の割合は66.4%で半数を超えている。

グラフ6 魚種別漁獲量



出典：市町村の姿より筆者作成

表1 漁獲量金額

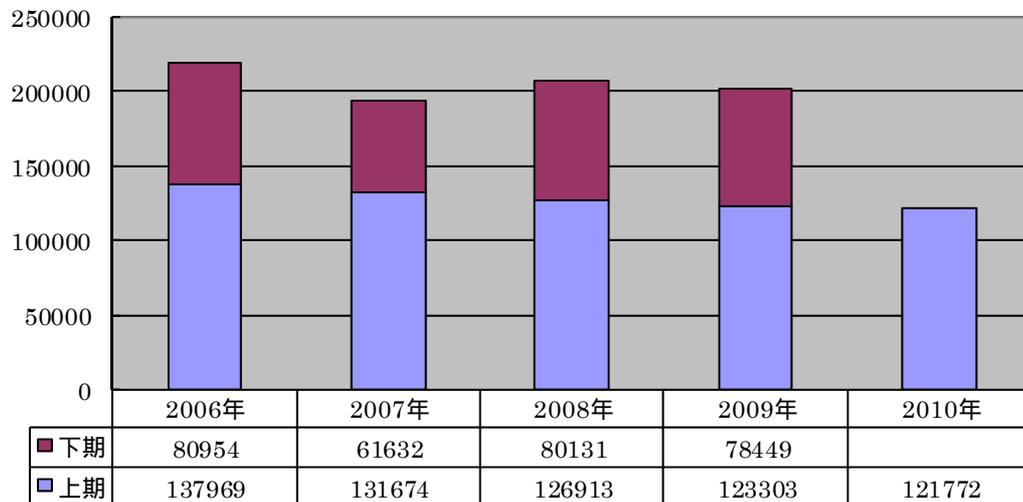
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
魚名	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
たら	121,194	89,805	89,805	146,978
さけ	251,719	432,946	513,705	128,009
ます	25,148	12,436	13,844	31,422
いか	294,693	313,914	411,088	198,568
かれい	44,781	38,925	40,217	39,912
ほっけ	41,298	46,734	58,845	88,053
たら	4,978	4,602	7,798	5,793
ひらめ	34,978	25,221	34,243	35,826
たこ	25,981	26,620	28,200	29,181
えび	47,397	9,486	3,588	3,528
なまこ	5,621	17,043	51,284	47,467
その他	71,081	62,149	52,374	56,087

出典：岩内観光HPより筆者作成

5. 観光

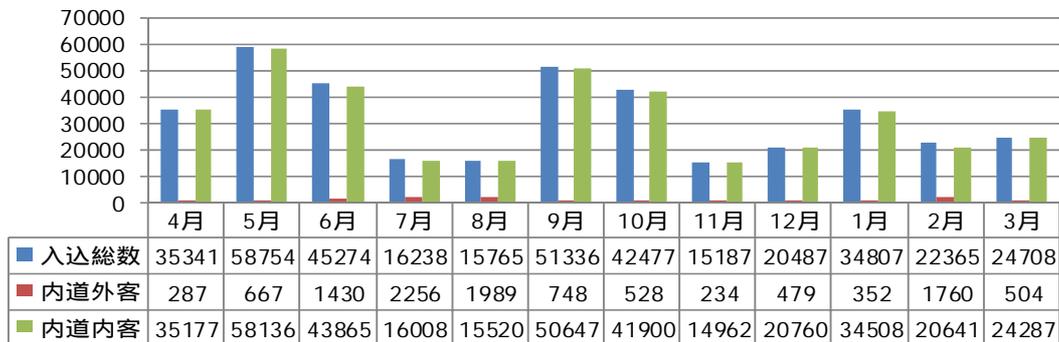
5.1 観光入込客数

グラフ7 観光入り込み客数



出典：道庁より筆者作成

グラフ8 観光入込客数



出典：道庁より筆者作成

近年は一定した観光入込客数を示している。2006年に入込客数がピークとなったが、それ以降減少の傾向がみられる。また7月、8月の観光客入込客数が多いため、岩内町は夏型観光であることがわかる。

5.2 観光スポット

5.2.1 岩内温泉郷

岩内岳のふもとの高原温泉。湯に浸かりながら日本海・積丹半島を一望する抜群のロケーションが人気である。イカ釣りの漁火が輝く夜景が素晴らしい。後方には、いわない国際スキー場があり、スキーの宿として利用する客も多い。特に「いわない温泉高島旅館別館 おかえりなさい」が人気のある温泉旅館である。肩こり、腰痛筋肉痛、ストレス、打撲、神経痛、冷え症、糖尿病などに効果がある。

図7 岩内温泉郷



出典：岩内観光 HP

5.2.2 道の駅

道の駅いわないは、元国鉄岩内駅の跡地につくられた岩内マリンプラザ地区が道の駅として誕生したもの。国道229号線、276号線の分岐点として利便性のある施設で。旅のおすすめ情報、道路情報、観光案内などのサービスや岩内の物産案内施設「たら丸館」は広く観光客に親しまれている。

ヨットをイメージしたガイドセンターたら丸館を中心に、木田金次郎美術館や岩内地方文化センター、岩内町のシンボルであるカリヨンモニュメント、噴水など水・光・音をモチーフにした美しい公園などがある。毎年

図8 道の駅



出典：岩内観光 HP

10万人を超える観光客が観光情報等を集めにやって来る。また、お土産品も販売している。

5.2.3 木田金次郎美術館

木田金次郎美術館は、木田芸術を全国に向けて発信している。単に絵を飾るだけではなく、岩内の自然や町にふれてもらったり季節に応じて年3回の展示替えを行ない、多様な木田作品を展示している。それとともに、岩内の地にある地方美術館としての活動も行っている。後志地域の小中学生から作品を公募し展示・表彰する「ふるさとこども美術展」や、地元の作家や中高生の展示発表の場としても活用されている。また、木田金次郎美術館は、「しりべし・ミュージアムロード」の一員としても活動している。近隣の美術館・記念館とともに、多彩な芸術のかたちを感じることもできる美術館である。

図9 木田金次郎美術館



出典：岩内観光 HP

5.3 ゆかりの人物

5.3.1 夏目漱石在籍地の碑

「坊ちゃん」「吾輩は猫である」などの作品で知られる明治の文豪夏目漱石が、22年間も岩内に戸籍だけに移していた。徴兵逃れとの説もあるが、「誰が」「なぜ」「どうして岩内に」など、ナゾは深まるばかりである。また、戸籍に記されていた場所には記念碑がある。戸籍謄本は郷土館で見ることができる。

図10 夏目漱石在籍地の碑



出典：岩内観光 HP

5.3.2 木田金次郎

木田 金次郎(1893年7月16日 - 1962年12月15日)は、北海道岩内町出身の洋画家である。有島武郎の小説「生まれ出づる悩み」のモデルとなった画家で、自由奔放な作風によって同町の自然を数多く描いた。

有島武郎と交遊があり、やがて有島が、木田青年との交流を小説にし、「生れ出づる悩み」として出版すると、そのモデル画家として知られるようになる。郷里の北海道岩内町で画壇と無関係に画業にはげみ、独自の画風をきずいた。作品には「青い太陽」などがある。有島の激励を受けながら、厳しい漁師生活のなかで岩内周辺の自然を描き続け、有島武郎の没後、家業である漁業を捨て

図11 木田金次郎



出典：岩内観光 HP

画家に専念する。

1954年岩内大火（市街地の8割を焼失）により、それまでの作品約1,500点余を焼失したが、その後、精力的な創作を続け、生涯、故郷岩内を離れることなく、独自の画境を切り開いていった。1962年、69歳の時に脳出血により亡くなった。

5.3.3 田南部 力

田南部 力（たなべ ちから、1975年4月20日 - ）は、日本のアマチュアレスリング選手（フリースタイル）。北海道岩内郡岩内町出身。89年国体開催を前に町内に設立された岩内レスリング協会で競技を始める。岩見沢農高時代は54キロ級で2年連続インターハイ王者。日体大3年の96年に全日本選手権初優勝し、5度優勝。98年警視庁へ入庁。00年シドニー五輪10位。02年世界選手権6位、釜山アジア大会銀メダル。03年世界選手権7位。

好物はもち米。アテネにも赤飯とおこわを大量に持ちこんだ。

図 12 田南部力



出典：田南部力 PR

参考資料

- ・岩内町公式 HP：<http://www.town.iwanai.hokkaido.jp/>
- ・農林水産省/統計情報：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>
- ・「市町村の姿」：<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-01/402/economy.html>
- ・北海道庁 HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・気象庁 HP：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・田南部力：<http://spysee.jp/%E7%94%B0%E5%8D%97%E9%83%A8%E5%8A%9B/65993>